

フィンランドから農林・環境大臣、企業代表団が訪日。「バイオエコノミーセミナー」にて交流を深めました。

2017年3月、フィンランドから農林・環境大臣および企業代表団が訪日。「バイオエコノミーセミナー」が開催され、革新的なバイオ製品、バイオマス資源、クリーンテック・イノベーション等についての活発な交流が実現しました。



▲左から、
駐日フィンランド大使、
当社石坂代表、
ティーリカイネン農林・
環境大臣、
伊藤忠彦環境副大臣、

皆様との交流も活発に
行われました。

バイオエコノミーセミナーには、 各界から約100名が参加

「フィンランド独立100周年・バイオエコノミーセミナー&レセプション」が、2017年3月、東京・港区赤坂、明治記念館にて行われました。フィンランドのキンモ・ティーリカイネン農林・環境大臣、関連企業の訪問団が訪日され、フィンランドの誇るバイオエコノミーに関連する技術の理解促進を目的としたセミナーを開催。会場には100名におよぶ企業関係者、政府・行政関係者が集い、森林資源を活用するバイオエネルギー、バイオガス、バイオ繊維、バイオプラスチックなどに関する革新的な技術や製品についての貴重な情報交換の場となりました。



▲セミナーでの各企業からのプレゼンテーションに
聞き入る参加者。

キンモ・ティーリカイネン大臣、 伊藤環境副大臣をはじめ両国の活発 なディスカッションがされました。

開催にあたり、キンモ・ティーリカイネン農林・環境大臣から、次のようなメッセージがありました。「フィンランド政府はバイオエコノミーおよび循環経済、クリーンテックソリューションの

先駆者という立場を維持していくことを目指しています。再生可能な天然資源とリサイクルされた原料に基づいたエネルギー効率の良い低炭素社会になるべく尽力しています。フィンランドの新たなバイオエコノミーのビジネス機会は、バイオマスと水源の賢い開発に基づいています。関連のある技術が開発され、高い付加価値製品とサービスが生まれています。持続可能なバイオエコノミーでは、廃棄物と産業サイドストリームが原料としてさらに重要な役割を果たしています。これはバイオエコノミーの原料ベースを補完し、自然のバイオマスの置き換えと環境負荷の低減に貢献します。フィンランドと日本の間で、また地域と世界的な市場で二国間の協力、通商、投資を強化できる新たな機会とパートナーシップを見つけられると期待しています。」



▲レセプションでのキンモ・ティーリカイン大臣

日本からは、伊藤忠彦環境副大臣がご挨拶され、「森林資源を再生可能エネルギーとして活用すること、は、温暖化対策だけでなく、地域の活性化にとっても重要であると考えています。フィンランドでは、潤沢な天然資源であっても限界があることを認識し、活用していくための高いレベルの専門知見をお持ちです。今回は、その取り組みについて学ぶ良い機会であります。バイオエコノミー関連のネットワークづくりに貢献するとともに、将来の地球温暖化への対応にもつながっていくものと考えています。」との想いをお話され、フィンランド、

日本、両国ともに、活発なディスカッションや交流を歓迎する内容となりました。

レセプションでは、フィンランド企業の高い技術のプレゼンを受けました

レセプションでは、多くのフィンランド企業が、自社の製品説明やネットワークづくりに尽力されており、当社石坂代表も、様々な興味深いバイオ製品のご案内、ご説明を受けました。例えば、PAPTIC社では、リサイクルできずに残るプラスチックからの再生可能な梱包素材への移行による「持ち運びバック」などの製品開発について。あるいはLumir社では、室内音響向けに生物学に基づくソリューションを生産し、自然の繊維を使用した吸音面の製品開発についてなど、斬新な製品開発やビジネス展開についての多くのヒントをいただき、今後の海外企業との連携へのきっかけづくりとなりました。こうした具体的製品の開発やビジネスプランが、環境リサイクル業界やグローバルなクリーンテックを目指す企業にとって、未来への大きな財産となっていくことでしょう。



▲レセプション会場では、フィンランド企業のバイオ製品の紹介や説明が行われるとともに、両国の政府関係者とのコミュニケーションの場となりました。

▲伊藤環境副大臣と当社代表石坂

